

ホンモロコの発眼卵とふ化仔魚での放流効果の比較

三枝 仁・吉岡 剛・臼杵崇広

◆背景・目的

ホンモロコふ化仔魚の大量生産放流が計画されている中、ふ化仔魚よりも効果的で、かつ大量生産放流に際し労力およびコスト面で効率的な種苗放流方法を検討するため、発眼卵の放流効果を検証した。

◆成果の内容・特徴

- ・発眼卵とふ化仔魚を約55万尾ずつ生産し、それぞれ識別が可能な標識を施して同地点に放流した。
- ・放流後、放流場所周辺で小型曳網を曳網し、ホンモロコ稚魚175尾を採集した。このうち、発眼卵で放流したものが36尾、ふ化仔魚で放流したものは10尾採捕されていた(表)。
- ・採捕された発眼卵放流魚とふ化仔魚放流魚および天然魚について、採捕日ごとの平均体長の推移を見たところ、それぞれの平均体長はほぼ同様に推移していた(図)。
- ・発眼卵放流魚がふ化仔魚放流魚よりも多く再捕されたこと、放流後の成長についても周辺の天然魚とほぼ同等であると考えられたことから、発眼卵放流は放流方法として有効であると考えられた。

◆成果の活用・留意点

- ・発眼卵放流を放流事業に採用することで、事業の効率化が期待される。
- ・今後は、事業規模での実施を視野に放流の具体的な技術開発を進める必要がある。

表 標識魚の採捕数

採捕日	発眼卵放流魚	ふ化仔魚放流魚	栽培20mm放流魚	無標識(天然魚)	計
計	36	10	7	122	175

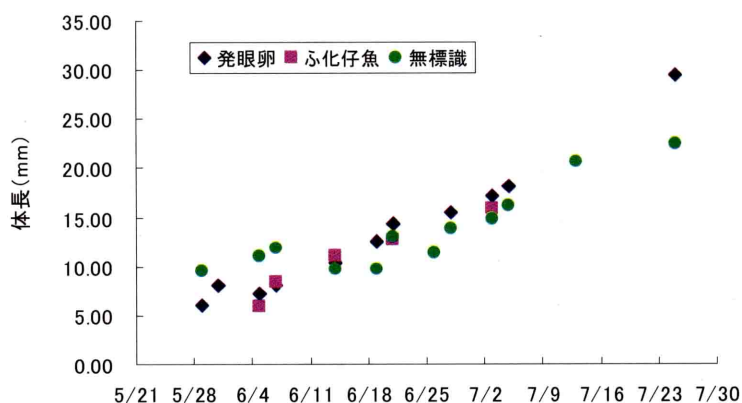


図 採捕された種苗の採捕日ごとの平均体長